旭化成の知財DX：生成AI活用で実現する「効率化」から「戦略的価値創造」への変革

生成AIによる知財実務の高度化と成果



用途候補の選別時間を
約60%削減（従来の約40%に短縮）
統計クラスタリングとLLMで
6,000超の用途候補を高速抽出



単なる「時間の短縮」から
「分析・提案の質の向上」へ
削減した時間を仮説検証や
事業部門との対話へ再配分

人とAIの役割分担と共創型アプローチ

AI「パターン抽出」



AIの抽出データに人間が自社独自の
経営価値観と文脈を与える

受動的なレポート作成から
事業へ伴走する「共創力」へ

人「自社文脈での再構築」



判断設計・行動接続・行動伴走により
事業価値を共同設計する

	従来のアプローチ	共創型知財インテリジェンス
主たる目的	業務時間の短縮・定型調査の省力化	仮説検証の最大化・事業提案の質の深化
担当者の役割	大量文献の読解・機械的な分類作業	意思決定の問いの設定・自社文脈での再構築
事業側との関係	依頼に基づく受動的な分析提出	共創関係（判断設計・行動接続・行動伴走）

Gemini Notebook